
コース名：教育用ウェブ・ページ開発の体験交流ワークショップ

(佐賀啓男)

対 象：ウェブ・ページを開発した経験があり、それをより効果的にしようと願う教員

目 標：他の人の開発方法を学ぶことから、よりよい開発法を考案することができる。

研修時間：1日

研修内容：

- ・ 導入：ウェブ・ページの開発と利用
- ・ 参加者による開発体験の発表
- ・ 意見交換
- ・ 新たな開発法の考案と発表
- ・ まとめ

研修方法：

- 講義と演示
- 発表と演示
- 質疑・討論
- 作業と発表
- まとめ

研修評価の観点：

- ・ 他の人の開発方法がどれくらい役に立ち、そこからどれくらい学べたか。
- ・ 自身の開発方法を改善するための計画をどれくらい立てられたか。

ラショナル：

授業にウェブ・ページを活用する教員は増えている。また、教材の自作の観点では、ウェブ・ページは、他のメディアよりも容易である側面もあり、開発を行う教員が増えることが予想され、その開発法を向上させたいと願う潜在的な対象者は多いと思われる。唯一の効果的な開発法があるというわけではないので、参加者どうしが体験を交流するなかから、自己の開発法を向上させる手がかりを得ることが期待される。

備 考：

体験を発表し、それをもとに討論するという形態であるので、参加人数は10名以内にしたい。各自が開発したウェブ・ページにアクセスしながら、授業のなかでどのような位置づけで用いているかを発表する。全体を前に発表し、討論は、テーマの類似性を考慮して小グループで実施したい。

ネットワークに結んだコンピュータとモニターは、複数セット用意する必要がある。また、専門分野を特定して参加者を募った方が、交流がより有意義になるだろう。たとえば、英語教育分野のための体験交流ワークショップなど。
